

よつば保育園職員自己評価

自己評価年度
令和7年度

施設名	よつば保育園	
評価者	職名	園長
	氏名	今村修一

評価項目の構成	
評価対象	評価分類
1 子どもの発達援助	① 発達援助の基本
	② 健康管理・食事
	③ 保育環境
	④ 保育内容
2 子育て支援	① 入所児童の保護者の育児支援
	② 多様な子育てニーズへの対応
	③ 地域の子育て支援
3 地域の住民や関係機関等との連携	① 地域の住民や関係機関・団体との連携
	② 実習・ボランティア
4 運営管理	① 基本方針
	② 組織運営
	③ 守秘義務の遵守
	④ 情報提供・保護者の意見の反映
	⑤ 安全・衛生管理

この自己評価は、国の「福祉サービスの第三者評価基準」に基づき、当園の提供サービスについて自己評価を行ったものです。

1 子どもの発達支援						
評価基準				評価結果		
① 発達援助 の 基本	(1)	保育計画が、保育の基本方針に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して作成されている。		A	B	C
				11	1	0
	(2)	指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき、指導計画を改定している。		A	B	C
				12	0	0
	(3)	一人一人の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。		A	B	C
				12	0	0
	(4)	一人一人の子どもの発達状況、保育目標、生活状況についての記録があり、それぞれの子どもの関係する全職員に周知されている。		A	B	C
				9	3	0
	(5)	一人一人の子どもの発達状況、保育目標、保育の実際について話し合うためのケース会議を定期的かつ必要に応じて開催している。		A	B	C
				9	3	0
総合 所見	(4)については、個々の園児を職員全体に周知すれば、守秘義務違反につながる恐れがあるため担当職員のための周知を行っているが、今後は完全管理のもと周知方法を考えていきたい。(5)ケース会議は、定期的開催をしているが、保護者や関係機関との調整があるため主担任・主幹保育士・副園長での対応で四半期ごとの会議を行っている。					
② 健康管 理・ 食事	(6)	登園時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり子ども一人一人の健康状態に応じて実施している。		A	B	C
				12	0	0
	(7)	健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。		A	B	C
				12	0	0
	(8)	感染症への対応については、マニュアルなどがあり、発生の状況を必要に応じて保護者に連絡している。		A	B	C
				12	0	0
	(9)	専門医から指示があった場合、アレルギー疾患をもつ子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。		A	B	C
				12	0	0
	(10)	日々の献立を保護者に示すとともに、必要に応じて、子どもの喫食状況を保護者に知らせている。		A	B	C
				12	0	0
② 健康管 理・ 食事		食事を楽しむことができる工夫をしている。		A	B	C
				9	3	0
	(11)	○ ア 食事をする部屋としての雰囲気づくりに配慮している。				
		○ イ 食器の材質や形などに配慮している。				
		○ ウ 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。				
		○ エ 子どもの負担になるほどに、残さず食べることを強制したり、偏食を直そうと叱ったりしていない。				
		○ オ 子どもが落ち着いて食事を楽しめるように工夫している。				
		○ カ 時には戸外で食べるなど、様々な食事のスタイルの工夫がある。				

② 健康管理・食事	(11)	○ キ おやつは、手作りを心がけている。
		○ ク 旬のものや季節感のある食材やメニューを取り入れている。
		○ ケ 嗜好や喫食状況に基づき食事内容を改善している。
		○ コ 子どもが育てた野菜などを料理して食べることがある。
		○ サ 子どもが配膳や後片づけなどに参加できるよう配慮している。
		○ シ 調理作業をしている場面を子どもたちがみたり、言葉を交わしたりできるような工夫を行っている。
総合所見	健康診断の結果は、結果が出た時点で保護者・クラス担任主幹以上で共有している。野菜は、よつば保育園の農園で色々と栽培・収穫・調理と行い収穫した野菜が給食やおやつに出るときには、担当園児による園内放送を行い嗜好性を高めるための工夫を行っている。	
③ 保育環境	(12)	子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。 A B C 12 0 0
		○ ア 採光に配慮している。
		○ イ 換気に配慮している。
		○ ウ 各部屋に湿温計などがあり、温度・湿度に配慮している。
		○ エ 手洗い場、トイレは、保育中も時折り清掃し、不快なおいがないようにしている。
		○ オ 寝具の消毒や乾燥を定期的に行っている。
	○ カ 屋外の砂場や遊具の衛生面に配慮している。	
	(13)	生活の場に相応しい環境とする取り組みを行っている。 A B C 10 2 0
		○ ア 子どもが不安になった時などにいつでも応じられるように、保育者が身近にいる。
		○ イ 一人一人の子どもがくつろいだり落ち着ける場所がある。
		○ ウ 眠くなった時に安心して眠ることができる空間が確保されている。
		○ エ 食事のための空間が確保されている。
		○ オ 季節にあわせてインテリアが工夫されている。
		○ カ 配色に配慮した保育室となっている。
○ キ 音楽や保育者の声など、音に配慮している。		
○ ク 屋外での活動の場が確保されている。		
総合所見	採光や換気は、感染症の配慮から十二分に行ってる。エアコンや換気扇の清掃は日頃は、手の届く範囲で行い3年に一度くらいでエアコン・換気扇の分解清掃を行っている。玄関では四季に合わせて職員による手作りの製作物を展示して園児たちの四季の変化等を感じるようにしている。屋外活動は、園庭以外で隣接する農園活動や第2運動場が園から直線で50メートルくらいにあるので全園児一同の園外保育も十分に行うことができる。	
④ 保育内容	(14)	子ども一人一人への理解を深め、受容しようと努めている。 A B C 10 2 0
		○ ア 子どもに分かりやすい温かな言葉づかいで、おだやかに話している。
		○ イ 「早くしなさい」とせかさ言葉や「だめ」「いけません」など制止する言葉を不必要に用いないようにしている。
		○ ウ 子どもの質問に対して、「待って」「あとで」などと言わずに、なるべくその場で対応している。
		○ エ 「できない」「やって」などと言ってくる子どもに対して、その都度気持ちを受け止めて対応している。
		○ オ 「いや」などと駄々をこねたり、自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。
		○ カ 登園時に泣く子どもに対して、放っておいたり、叱ったりするのではなく、子どもの状況に応じて、抱いたり、やさしく声をかけたりしている。

④ 保育内容	(15)	子ども一人一人への理解を深め、受容しようと努めている。	A	B	C
			10	2	0
		○ ア トイレに行くことをせかしたり、強制したりせずに、一人一人のリズムに合わせるようにしている。			
		○ イ おもらしをしたときに、その都度やさしく対応し、子どもの心を傷つけないよう配慮している。			
		○ ウ 衣服の脱ぎ着に際して、せかしたり、着せてしまったりしないで、自分でやろうとする子どもの気持ちを大切にしている。			
		○ エ 子どもが自分で着脱しやすいように、衣類の整理の仕方や着方の援助について工夫がみられる。			
		○ オ 休息時には、子守歌を歌ったり、背中を軽くたたくなど、安心して心地よい眠りにつけるように配慮している。			
		○ カ 休息時間以外でも、一人一人の状況に応じて、眠らせたり、身体を休ませるようにさせたりしている。			
④ 保育内容	(16)	○ キ 休息時間に、眠くない子どもへの配慮をしている。			
		子どもが自発的に活動できる環境が整備されている。	A	B	C
			8	4	0
		○ ア 子どもの発達段階に即した玩具や遊具が用意されている。			
		○ イ 子どもが自由に素材や用具などを自分で取り出して遊べるように工夫されている。			
④ 保育内容	(17)	○ ウ 好きな遊びができるコーナーが用意されている。			
		○ エ 子どもが自由に遊べる時間が確保されている。			
		身近な自然や社会と関われるような取り組みがされている。	A	B	C
			6	6	0
		○ ア 子どもが身近に動植物に接する機会をつくっている。			
④ 保育内容	(18)	○ イ 園庭や散歩で拾ってきた葉や木の実など、季節感のある素材を活用している。			
		○ ウ 散歩などで地域の人たちに接する機会をつくっている。			
		○ エ 地域の公共機関を利用するなど、社会体験が得られる機会をつくっている。			
		さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	A	B	C
			11	1	0
		○ ア 子どもが自由に歌ったり、踊ったりする場面がみられる。			
		○ イ さまざまな楽器を楽しめるようになっている。			
		○ ウ クレヨン・絵具・粘土・紙など、様々な素材を子どもたちが自分で使えるように用意されている。			
④ 保育内容	(19)	○ エ 子どもの作品が保育に活かされたり、工夫して飾られたりするなど、大切に扱われている。			
		○ オ 身体を使った様々な表現遊びが取り入れられている。			
		○ カ 絵本の読みきかせや紙芝居などを積極的に取り入れている。			
		遊びや生活を通して、人間関係が育つよう配慮している。	A	B	C
			11	1	0
		○ ア 子ども同士の関係をよりよくするような適切な言葉かけをしている。			
		○ イ けんかの場面では、危険のないように注意しながら、子どもたち同士で解決するように援助している。			
④ 保育内容	(19)	○ ウ 順番を守るなど、社会的ルールを身につけていくように配慮している。			
		○ エ 当番活動などが日常生活の中で行われている。			
		○ オ 異年齢の子どもとの交流が行われている。			

④ 保育内容	(20)	子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるよう配慮している。	A	B	C
			10	2	0
		○ ア 子どもが、自分の意見を保育者などの大人にはっきり言うことができるよう配慮している。			
		○ イ 子どもが、他の子どもの気持ちや発言を受け入れられるよう配慮している。			
		○ ウ 一人一人の子どもの生活習慣や文化、考え方などの違いを知り、それを尊重する心を育てるよう努めている。			
		○ エ 子どもの人権への配慮や互いを尊重する心を育てるための具体的な取り組みを行っている。			
④ 保育内容	(21)	性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	A	B	C
			12	0	0
		○ ア 「男の子だからめめそするな」などと、子どもの態度について、性差への先入観による固定的な対応をしていない。			
		○ イ 「それは女の子の色」などと、子どもの服装について、性差への先入観による固定的な対応をしていない。			
		○ ウ 「それは女の子の遊び」などと、子どもの遊び方について、性差への先入観による固定的な対応をしていない。			
		○ エ 「男の子だから家事をすることはない」などと、育児、家事、介護などについて、性差への先入観による固定的な対応をしていない。			
④ 保育内容	(22)	乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	A	B	C
			11	1	0
		○ ア 授乳は、子どもが欲しがるときに、抱いて目をあわせたり、微笑みかけたりしながらゆったりと飲ませている。			
		○ イ 離乳食については、家庭と連携をとりながら、一人一人の子どもの状況に配慮して行っている。			
		○ ウ おむつ交換時は、やさしく声をかけたり、スキンシップをとりながら行っている。			
		○ エ 一人一人の生活リズムに合わせて睡眠をとることができるように、静かな空間が確保されている。			
		○ オ 外気に触れたり、戸外遊びを行う機会を設けている。			
		○ カ 喃語には、ゆったりとやさしく応えている。			
		○ キ 顔を見合ってあやしたり、乳児とのやりとりや触れ合い遊びを行っている。			
		○ ク たて抱き、腹這いなど、子どもの姿勢を変えている。			
		○ ケ 寝返りのできない乳児を寝かせる場合には仰向けに寝かせている。			
		○ コ 特定の保育者との継続的な関わりが保てるよう配慮している。			
④ 保育内容	(23)	長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	A	B	C
			10	2	0
		○ ア 家庭的な雰囲気が感じられる。			
		○ イ 好きなことをしてくつろげる空間や遊具がある			
		○ ウ 長時間保育を受ける子どもに夕食や軽食が提供されている			
		○ エ 一人一人の子どもの要求に応じて、抱いたり、声をかけるなど、ゆったりと接している。			
④ 保育内容	(24)	○ オ 異年齢の子ども同士で遊べるように配慮されている。			
		○ カ 子どもの状況について、職員間の引継ぎを適切に行っているか。			

④ 保育内容	(24)	障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。		A	B	C	
				7	5	0	
		○	ア 障害のない子どもの、障害児への関わりに対して配慮している。				
		○	イ 園舎はバリアフリーの配慮がみられる。				
		○	ウ 障害児の特性に合わせた園での生活の仕方の計画が立てられている。				
		○	エ 障害児保育について保育所全体で定期的に話し合う機会を設けている。				
		○	オ 障害児保育に携わる者は、障害児保育に関する研修を受けている。				
		○	カ 医療機関や専門機関から相談や助言を必要に応じて受けられる。				
		○	キ 保護者に、障害児に関する適切な情報を伝えるための取り組みを行っている。				
総合 所見	子どもが自発的に活動出来るような環境作りをするようにした。遊びや生活の中で、よりよく人間関係が育っていくように見守ったり仲裁をしながら子どもたち同士で解決できる力をつけるように援助をするようにした。障害児の個々に合わせた対応が研修を受けていても実際に関わり接していく中で難しさも多かった。						

2 子育て支援

評 価 基 準			評価結果		
① 入所児童の 保護者の育 児支援	(1)	一人一人の保護者と、日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	A 8	B 3	C 0
	(2)	家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている。	A 11	B 0	C 0
	(3)	子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている。	A 10	B 1	C 0
	(4)	虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに園長まで届く体制になっている。	A 11	B 0	C 0
	(5)	虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている。	A 11	B 0	C 0
② 多様な子育て ニーズへの 対応	(6)	多様な子育てニーズを把握するための取り組みを行い、それを事業に反映している。	A 10	B 1	C 0
③ 地域の子育て 支援	(7)	育児相談など地域の子育て家庭を対象とする子育て支援のための取り組みを行っている。	A 6	B 5	C 0
		○ ア 電話やファクスなどによる子育て相談を行っている。			
		○ イ 来園による子育て相談を行っている。			
		○ ウ 育児情報の提供を行っている。			
		○ エ 地域の子育て家庭の親子が定期的に集まる機会を設けている。			
		○ オ 地域の子育て家庭の親子と園に通っている親子が交流する機会を設けている。			
		○ カ 地域の母子保健活動と連携した取り組みを行っている。			
	(8)	一時保育は、一人一人の子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。	A 9	B 2	C 0
		○ ア 一時保育のための保育室などの確保に配慮している。			
		○ イ 一時保育のための担当者が決められている。			
○ ウ 一人一人の子どもの日々の状態を把握している。					
総合 所見	一人一人の保護者と日常的に情報交換ができ、保護者と共通理解のもと子どもがよりよく発達していける方向に進めることができた。子育て支援や一時保育を通して地域の子育て支援も活発になっていると思う。				

3 地域の住民や関係機関等との連携

評価基準			評価結果		
① 地域の住民や関係機関・団体との連携	(1)	保育所の役割を果たすために必要な地域の関係機関などの情報を収集し、それを職員が共有している。多	A 10	B 1	C 0
	(2)	子どもの健康状況について、医療機関などに相談や連携ができる体制になっている。	A 11	B 0	C 0
	(3)	育児相談などに際して、児童相談所などの専門機関に相談や連携ができる体制になっている。	A 11	B 0	C 0
	(4)	小学校との間で、小学生と園児とが行事等で交流する機会を設けており、職員間の話し合い、研修などの連携の機会がある。	A 11	B 0	C 0
	(5)	民生・児童委員や自治会等の地域団体と連携した取り組みを行っている。	A 11	B 0	C 0
	(6)	近隣の人々に保育について理解を得たり、協力を依頼するなどの配慮をしている。	A 11	B 0	C 0
	(7)	中高生などの保育体験を受け入れるに当たり、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、受け入れの担当者も決められている。	A 11	B 0	C 0
② 実習・ボランティア	(8)	実習生を受け入れるに当たっては、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、実習担当者も決められている。	A 10	B 1	C 0
	(9)	ボランティアを受け入れるに当たっては、受け入れの意義や方針が全職員に理解され、受け入れの担当者も決められている。	A 10	B 1	C 0
総合所見	小学校との交流する機会がたくさんあり、小学校との連携がしっかりしている。また、子どもの発達状況、健康状況に応じて医療機関への連携もしっかり体制がができています。				

4 運営管理

評 価 基 準			評価結果		
① 基本方針	(1)	保育所の保育理念及び基本方針が明文化されている。	A	B	C
			9	2	0
	(2)	保育理念や基本方針を職員、保護者、関係者に周知するための取り組みを行っている。	A	B	C
			11	0	0
② 組織運営	(3)	保育の質の向上や改善のための取り組みを、職員参加により行っている。	A	B	C
			11	0	0
	(4)	保育の内容について、職員参加により、定期的に自己評価を行っている。	A	B	C
			11	0	0
	(5)	職員の研修ニーズを把握し、職員に適切な研修機会を確保している。	A	B	C
			11	0	0
③ 守秘義務の遵守	(6)	守秘義務の遵守を周知している。	A	B	C
			11	0	0
④ 情報提供・保護者の意見の反映		情報提供に当たって、わかりやすく伝える工夫や配慮を行っている。	A	B	C
			8	3	0
	(7)	○ ア 園だより、クラスだより等を配布している。			
		○ イ 園の掲示等による保護者への情報提供について、わかりやすく伝える工夫がみられる。			
		○ ウ パンフレットや要覧等を園児の保護者以外にも配布している。			
		○ エ 園外向けの掲示板やポスター等で、園の様子や行事などについて、地域の人に見てもらえるようにしている。			
		○ オ ホームページや情報誌など誰もが容易に入手できる形態の広報媒体がある。			
		○ カ 園の運営状況等についての情報を求めに応じて公開できるようにしている。			
	(8)	保育の実施に当たり、保護者から意見を聞くための取り組みを行い、その意向に配慮している。	A	B	C
			11	0	0
⑤ 安全・衛生管理	(9)	事故や災害に適切に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている。	A	B	C
			11	0	0
	(10)	事故防止のための具体的な取り組みを行っている。	A	B	C
			10	1	0
	(11)	調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている。	A	B	C
			10	1	0
総合 所見	保育の質の向上の為、職員が向上の意識を持って保育に取り組んでいる。園だより、クラスだよりや掲示物でしっかり情報を掲示している。				

5 全体の総合所見

評価年度の自己評価を通じての総合所見

項目ごとを、改めて保育・保育園での支援や配慮を見直していく必要があると感じたのではないのでしょうか。

年長クラスは、就学に向けての意識を常に持ち保育に取り組んだことが、毎月の会議等の発言で理解できた。各クラスとも多様なニーズの子が多かった為、それぞれにあった対応をしていく難しさがあり、運動会や発表会など行事にどう参加させていくかを話し合う中で各職員にもいい経験、勉強になった。以上児担当の職員は、園外保育が多くなり関係者への対応も十分に把握していく必要がある。年長園児及び担任は、地域の病院への慰問や、小学校との交流があり貴重な体験をする場の大切さを感じると共に連携の厳しさや必要性をひしひしと感じた事と思う。

自己評価を基にした次年度への課題、目標など

個々に対応する子どもが増えているので、迷ったこと職員間で話し合いながら、進めていきたい。また特性がある子への理解、関わり方など勉強し生かしていきたい。

保護者ともコミュニケーションを取りながら信頼関係を築きつつ、一緒に考え成長に繋がっていったらと思う。

対応が必要な子どもが増えているので、その子どもにはどういう援助の仕方がより良い成長に繋がるのかを職員間で話し合いながら、進めていきたいと思う。

また、保護者ともコミュニケーションを取りながら信頼関係を築きつつ、一緒に子育てをしていく手立てを考えて行けるようにできればと思う。

多様なニーズの中で、子ども、保護者一人一人とのコミュニケーションを取り、信頼関係を大事にしていく。また、様々な保護者の考え方がある為、保護者支援に努めていきたい。その為にも職員一人一人の保育を見直し保育の向上を意識し日々の保育を行っていきたい。